

**気象研究ノート第216号**  
**「2005/06年 日本の寒冬・豪雪」**  
**発刊のお知らせ**

気象研究ノート編集委員会

2005/06年の冬は12月を中心とした記録的な低温と、各地での記録的な大雪によって、強く印象に残る冬となりました。各地で大雪に伴う災害が多発し、近年の暖冬傾向に慣れた体に、冬の厳しさを改めて実感された方も多いことでしょう。「38豪雪」や「56豪雪」と呼ばれるような、記憶に残る冬を思い起こされた方もいるかもしれません。本書は2005/06年の冬の寒冬・豪雪の実態とそれをもたらした要因及びその予測可能性について、観測の事実、データ解析、数値実験などさまざまな角度から調べられた最新の知見をまとめたものです。

**【目次】**

**第I部 2005/06年冬の気象と海洋の概況**

- 第1章 日本の天候の特徴
- 第2章 気象大循環場の特徴

**第II部 平成18年豪雪**

- 第3章 平成18年豪雪の被害
- 第4章 平成18年豪雪時の積雪構造の特徴
- 第5章 平成18年豪雪における降雪分布の特徴
- 第6章 雪雲の発達高度からみた2005年12月の豪雪  
～環境場からみた潜在的発達高度と数値実験の結果から～

第7章 豪雪研究の経緯と今後の課題

**第III部 寒冬をもたらした要因**

- 第8章 2005年12月の熱帯対流活動と日本付近の異常低温
- 第9章 平成18年豪雪と冬季東アジアモンスーン変動
- 第10章 2005年12月の日本の寒さにかかわるシベリア高気圧とアリューシャン・アイスランド低気圧シーソー
- 第11章 2005/06年冬季の爆弾低気圧の特徴
- 第12章 熱帯西部太平洋の2005/06年冬季の多雨をも

たらした対流活動

- 第13章 2006年1月の成層圏突然昇温期間中の対流圏循環偏差場の特徴
  - 第14章 2005/06年冬季成層圏突然昇温と予測可能性
  - 第15章 熱源・水蒸気源からみた2005年12月の日本海・オホーツク海とWPパターンとの関連性
  - 第16章 対馬暖流と冬季降水量の関係
  - 第17章 2005/2006年冬期における北太平洋中緯度域の海洋混合層変動について
  - 第18章 冬季東アジアモンスーンと熱帯SSTとの関連について
  - 第19章 2005年の北極海における海水減少の特徴
  - 第20章 冬季日本の寒さにかかわる北極海の海水面積異常
- 第IV部 寒冬・豪雪の長期予報及び予測可能性**
- 第21章 2005年12月の偏西風異常とその1か月アンサンブル数値予報
  - 第22章 2005年12月の「北極振動」の励起と予測可能性
  - 第23章 順圧気象大循環モデルによる北極振動指数の予測
  - 第24章 20 km 格子全球気象モデルによる冬季東アジアモンスーンの再現性
  - 第25章 全球気象モデルを用いた2005年12月の予報における初期値及び下部境界条件依存性
  - 第26章 マルチセンターグランドアンサンブルでみる2005/2006年の冬

**【編集】** 本田明治, 楠 昌司

282ページ, 2007年12月3日発行

**【価格】** 会員: 3,600円, 会員外: 5,300円